



サポートセンター通信

No. 99

サポセン・チャレンジ新企画始まる!

登録団体イベント告知



本年7月2日・3日に開催した「松本市市民活動フェスタ2022」では、コロナ禍で初めて YouTube を活用した動画配信を実施しました。お陰様で予想以上に多くの皆様から動画をご覧いただくことができ、8月に行った反省会(振り返り)では、「毎月何かやったらいいね」とか「各団体のイベント情報をYouTubeで告知したり、行ったイベントの動画配信などができたらいいね」などの意見も出されました。

そこで、当サポートセンターでは、日頃の活動はもちろん、パネル展・ワークショップ・交流会・講演会等の新たな企画やユニークな活動を通して、多くの人に団体を知ってもらうとともに、興味を持って活動に参加していただく機会として、①サポートセンターを使用したいとか、②YouTubeの動画配信を活用したいなど、新たにチャレンジするイベント等の企画を9月から募っています。

その結果、現在までに6団体が応募され、既にイベント告知の動画も配信されています(※上記写真は、市民活動サポートセンターYouTube チャンネルに掲載された今企画第1号の「登録団体イベント告知」動画です。)

- 当面の予定 11月19日(土) 10時~12時…ツキノワグマの暮らし紙芝居上演会とクマの学習会
- 12月11日(日) 10時30分~16時…科学の不思議やおもしろさを楽しむ企画展

※ 上記イベントの会場は、全て松本市市民活動サポートセンターです。<全て参加無料>

プラチナサポーターズ松本 視察研修報告

去る8月8日(月)、3年ぶりにプラチナサポーターズ松本の視察研修を行いました。

プラチナサポーターズ松本の会員数は約 70 名ですが、今回は有志 11 名とサポートセンター職員 3 名が参加しました。

視察研修の趣旨は、太平洋戦争中、志半ばで戦場に散った画学生が残した絵画などを収蔵展示している「戦没画学生慰霊美術館 無言館」を訪れ戦争と平和を考える機会とすることや、また、「信州の鎌倉」の異名を持つ上田市塩田平にある国宝(安楽寺国宝八角三重塔、大法寺国宝三重塔)と重要文化財(前山寺三重塔)を巡り、長野県の文化財について知識と教養を深めることでした。

無言館は小高い丘にある十字架型をした小さな美術館です。静寂の館内には、画学生が家族や恋人を思いながら描いた数多くの絵画や遺品などが展示され、見れば見るほど胸が熱くなり、その名の通り無言で見入ってしまいました。(本木)



無言館



前山寺三重塔

Close Up!

NPO 法人えんのわ

代表者：大塚 佳織
TEL：0263-54-3320
Mail：ennowa@hotmail.co.jp



NPO 法人えんのわは、塩尻市市民交流センターえんばーくを拠点にNPOなどの支援を行っている団体です。2012年に任意団体で発足し、2016年にNPO法人となり、活動は今年で10年目を迎えました。今回は現在理事長である大塚佳織さんにお話をうかがいました。

「2010年内閣府に『新しい公共』(※) 推進会議がスタートし、長野県内でも NPO や地域活動との協働を進める講座が複数開催されました。その中でも以前から地域課題の解決を考えていた団体のメンバーが、講座の受講者や地域の活動者に声をかけて任意団体として活動を始めました。

同じ頃、塩尻市に市民交流センターえんばーくが開館し、そこを拠点として地域活動の情報発信や交流の場を作ろうと考えました。

団体の名前は、えん《塩尻の塩(えん)、円、縁、園》(これはえんばーくの「えん」にも通じる)と、わ《輪、和、話、環》をつなげ「えんのわ」としました。『地域で活動する皆さんの、想いが伝わるお手伝い』を目的としています。

現在は、塩尻市の委託を受けて、NPO や地域活動に役立つ各種セミナーの開催(助成金、チラシ作成、事務力、ファンドレイジング(資金調達)等)、団体紹介のための情報誌『トトモニ』編集と発行(年4回)、何か活動を始めたい人のために無料相談の実施、しおじりまちづくりフェスティバルの企画運営などを行っています。

NPO の立ち上げや運営、団体の広報活動、資金調達などについての経験や知識を持ったメンバーで活動していますが、一緒に学び、活動してくれる人を募集しています。」

今後のイベントは、来る11/19(土)10時~15時 えんばーくにて“しおじりまちづくりフェスティバル”が開かれます。ほかにも市民活動に役立つ講座として、翌年 2/4(土)事務力、3/5(日)クラウドファンディングを開催予定とのことでした。

「同じ想いを持った人がつながり、地域に暮らして良かったと思える地域づくりを目指して、一緒に活動できればうれしいです。」と熱く語っていただきました。(本木)

(※)新しい公共とは…地域の住民やNPOが主体となり公共サービスを提供する社会、現象、または考え方

提供社会、現象、または考え方

ブログ

Facebook

『えんのわ』の活動を知りたい方は、
右のQRコードより参照ください。



「そんな彼らと語り合うには自分達も自国についてもっと学び、それを正しく伝えられる英語力が必用となります。お互いの文化や背景を真に理解し、尊重し合う先に魅力あふれるグローバル化・国際化が実現されるのではないのでしょうか。その為には英語で自国の文化を学ぶことは今後より一層重要性を増していくでしょう。」と中田さん。

この会では月に1~2回程勉強会を行っており、毎回一つの日本文化・行事を取り上げ、英語解釈を交えながら読み合わせをして理解をしていきます。その後、それにまつわる各自の経験、意見や思いなどを交換し、理解をより深めているそうです。

近年、松本市を訪れる外国人観光客の数と、外国人移住者の数は増加傾向にあります(コロナ禍は例外とする)。松本市も共生社会を目指し、これからも国際化の波は止まる事はないでしょう。遠くない未来、国籍に関係なく皆が理解し合い、平等に参加できる世の中になってほしいと願っていますが、それを絵空事のように考えるのではなく、自分はどんな事で貢献できるのだろうか。今回の取材を通して自分を見つめ直す機会となりました。(奥寺)

英語でジャパン

代表者：中田 和子
TEL：0263-35-6411
Mail：kazukon@go.tvm.ne.jp



今回はアルプス善意通訳協会(ALSA)の理事長も務め、長年英語講師をされている「英語でジャパン」代表の中田和子さんに取材をさせて頂きました。

この会は英語で松本市の文化・行事を含む日本文化全般に関する事柄を学ぶことを中心とし、松本市における海外交流イベント等の場で『英語による日本事情の発信』に寄与することを目的に 2020 年に発足。現在6人のメンバーが所属しています。

「外国の方と交流する際には『日本の文化と歴史に関する知識を英語で説明できること』は重要な要素の一つだと考えております。」そう話す中田さんは英語講師として、また松本城のガイドを通して様々な国の人々と出会ってきたそうですが、その交流の中で多くの外国人が自国の文化や歴史にとっても詳しく、愛着や誇りを持っていることを実感してきたそうです。

支える人たち

『奈川えんがわプロジェクト』東 大陽さん

松本市奈川地区の活性化に取り組む、有志団体(奈川えんがわプロジェクト)。信州大学の学生を中心に構成され、積極的に活動されている同プロジェクトについて、代表の東大陽さんにお話をうかがいました。

一 活動が始まった経緯について教えてください。

信州大学の講義の一環で奈川地区のPRについて扱ったことをきっかけに、地区に関心を持った学生が自主的に集まり、2021年に発足しました。私も当初この講義に参加しており、高校生の時から実際に地域に入って住民の人と一緒に活動することに興味があったことから、プロジェクトに加入しました。発足時(2年生)から代表を務めています。頼れる友人たちが心の支えになっています。



東さん(前列左から二人目)と仲間たち

一 具体的な活動内容について教えてください。

今年度は「奈川の今をより楽しく」をテーマに、地区の祭りや保平かぶ収穫への参加、託児の手伝いなどを通して住民の皆さんと交流しています。今年10月には地元の幼児や小中学生を対象に、木の実を使った工作やドッジボールをして一緒に楽しむ企画「ながわ秋まつり」を奈川保育園で開催しました。また、広く多くの人に同地区の魅力を知ってもらうために動画作成やSNS発信にも力を入れて活動しています。



保平かぶの収穫の様子

一 活動を継続する中で大切にしていることはありますか？

「奈川地区に定期的に通うこと」、「自分たちが楽しみながら

関わるができる環境を創ること」の2点を大切にしています。私は義務感ではなく、活動に参加することが楽しいという気持ちモチベーションになれば、自然と関わりたい気持ちが芽生えると考えています。そこで、継続的な活動につなげる過程を大切にしながら、まずは学生が地区に関わるができる環境の構築を行い、継続して通う仕組みをつくっています。発足から1年間の活動を経て、少しずつ地区の人との関係が深まったと感じる出来事が増え、とても嬉しく感じています。今後、様々な人の協力を得ながらメンバー個々の強みを活かして、地区の活性化に貢献していきたいです。

一 活動の魅力をお教えてください。

自然、文化、人の温かさ…日々、新たな魅力の発見と体験ができることが活動の魅力だと感じています。奈川地区の住民の方々は大変寛容で、地区に関わって活動することが本当に楽しいです。市や住民の方々を始め、多方面から活動をサポートしていただいております。大変恵まれた環境で活動ができていることに感謝しています。学生という立場を活かして地区の活動に少しでも貢献していきたいという思いは次第に強くなっています。



奈川地区散策の様子

一 最後に記事をご覧のみなさんに一言、お願いします。

この記事きっかけに奈川地区と私たちの活動に興味を持ってもらえたら非常に嬉しいです。ぜひ奈川地区について調べてみてください。そして、魅力あふれる奈川地区、私たちの活動に少しでも興味を持たれた方は、以下の連絡先から気軽にお問い合わせください!! ご連絡お待ちしております。

Mail: p.nagawaengawa@gmail.com

Instagram: @nagawa_shinshu

(右のQRコードから)



「私たち団体が、学生・市役所・地域が一同に会することができる『えんがわ』のような存在になっていけたら…」と力強く語る東さんの姿が印象的なインタビューでした。(インタビューアー内田)

■ イベント情報



【ツキノワグマ紙芝居原画展&クマ学習パネル展示会】

小さなお子様向け(幼稚園年長~小学校低学年)に信州の自然とツキノワグマの暮らしを伝える紙芝居の原画とクマの生態を伝えるパネル展示を実施

- ◆期間: 11月19日(土)~12月25日(日)
 <注:11/19(土)は①10時~、②11時~、紙芝居&学習会開催>
- ◆会場: 松本市市民活動サポートセンター
- ◆参加費: 無料
- ◆問合せ: NPO 法人信州ツキノワグマ研究会
 TEL: 090-5970-4244 (担当 浜口)
 E-mail: kumaken_shinshu@yahoo.co.jp

【科学の不思議さやおもしろさを楽しむ企画展】

簡単な実験や工作により、科学の不思議さに触れよう!

- ◆日時: 12月11日(日) 10:30~16:00
- ◆会場: 松本市市民活動サポートセンター
- ◆内容: ・磁石でアルミふたを回せるか?
 ・プラズマボールに蛍光灯を近づけるとどうなる?
 ・太陽や懐中電灯でモーターは回るか?
 ・1円玉は水に浮く? そして磁石で動く?
 ・単極モーターやパンハムのこま作り、他
- ◆参加費: 無料
- ◆問合せ: 地球環境フォーラム
 TEL: 090-4159-8572 (担当 林)
 E-mail: haruhide410@yahoo.co.jp

【サンタ・プロジェクト・まつもと】

様々な事情で困難の中にある子どもたちへ、クリスマスに心を込めて贈る「本のプレゼント」

- ◆期間: 11月26日(土)~12月4日(日)
- ◆贈り先: (順不同)
 信州大学医学部附属病院、信濃学園(福祉型障害児入所施設)
 長野県立こども病院、松本児童園(児童養護施設)
 城西病院小児科病棟、松本あさひ学園(児童心理治療施設)
 松本赤十字乳児院、松本児童相談所、松本市子ども日本語教育センター
- ◆サンタクローズになるためには
 ○期間中書店にて病院または施設のカードを選んでください
 ○本を選びレジでお買い求め下さい(800~1,500円が目安)
 ○子どもたちへのクリスマスカード(メッセージ)も添付可
- ◆協力書店: (順不同)
 ちいさいおうち 松本市沢村 3-4-41 ☎36-5053
 平安堂あづみ野店 安曇野市豊科刈がーデン内 ☎72-8877
 宮脇書店松本店 松本市出川刈がーク松本 1F ☎24-2435
 改造社松本駅前店 松本駅 MIDORI3F ☎36-3777
 興文堂アイティ店 山形村アイティ 21 2F ☎97-3949
 松本大学生協 松本大学キャンパス内 ☎48-7280
 信州大学生協 松本市旭 3-1-1 ☎36-2672
 ブックストア松本本箱 浅間温泉松本本箱 1F ☎0570-001-810
- ◆主催/問合せ: サンタ・プロジェクト・まつもと事務局
 TEL: 0263-46-2020
 FAX: 0263-50-6121
 NPO 法人ライフデザインセンター 代表 西垣恭子

■ サポートセンターより



プラチナサロン 12月

日時: 12月8日(木) 10:00~12:00
 内容: 歯の話
 講師: 木村歯科医院 木村茂夫医師
 会場: 市民活動サポートセンター
 対象: おおむね55歳以上
 参加費: 300円

プラチナサロン 1月

日時: 1月12日(木) 10:00~12:00
 内容: 新春寄席
 講師: プラチナサポーターズ松本メンバー
 場所: 市民活動サポートセンター
 対象: おおむね55歳以上
 参加費: 300円

プラチナサロン 2月

日時: 2月9日(木) 10:00~12:00
 内容: 松本城の話
 講師: 後藤芳孝さん
 場所: 市民活動サポートセンター
 対象: おおむね55歳以上
 参加費: 300円

編集後記

“姨捨”、善光寺の御開帳へ向かう高速のサービスエリアでその名を目にした時、同乗していた友は驚愕しました。私は映画檜山節孝を例に、その昔、貧困ゆえの口減らしのため、老婆を背負い入山し、置き去りにしたという哀しき姨捨山伝説について語りました。

童謡“赤とんぼ”、“おわれてみたのはいつの日か”の“おわれて”をあなたは漢字で書けますか? 追われては誤り。正解は負われて。(背)負われて肩越しに見た赤とんぼ、というのがこの歌の情景です。じゃあ誰に背負われたの? 母、いいえ正解は三番の歌詞にある「十五で嫁に行ったネエヤ」です。でもこのネエヤ、嫁に行った切りおりに便りも寄こさないとはちょっと薄情?

それもそのはず、ネエヤを漢字で書くと「(実の)姉や」でなく「姐や」。貧困ゆえの口減らしのため、子守奉公に出されたよその家の少女(守子と言う)だったのです。(少女の心情は、フォーク赤い鳥が歌った“竹田の子守歌”に詳しいのでここでは割愛します。)

“子ども食堂”、飽食の時代と言われたのも今は昔、この国はすっかり様変わりしてしまった様です。個々の経済事情に言及する立場にはないけれど…。 「この国の未来を背負って立つ子どもは国の宝」、時としてその幼い笑顔に貧困の影が射すことがあっても、どうか「栄養のあるものをしっかり食べて、それに打ち勝つ様、たくましく育て欲しい!」そう切に、切に願うのです。(永田)